

理事長挨拶

— 一般社団法人日本臨床整形外科学会のご紹介 —



一般社団法人日本臨床整形外科学会  
理事長 田辺 秀樹

一般社団法人日本臨床整形外科学会（JCOA）ホームページをご覧ください、ありがとうございます。

私たちは、整形外科を主に標榜し、皆様とはいつも身近に接している私的病院やクリニックの医師が主体の集団です。

平成26年5月23日現在の会員数は5,947名です。

整形外科とは、体を動かすための運動器（骨・筋肉・関節・靭帯・神経など）の疾患を扱います。具体的には、骨折・脱臼・捻挫などの外傷、スポーツ障害、加齢に伴う変性疾患、関節リウマチを含めた炎症疾患、脊椎・脊髄疾患、幼少児の先天性疾患、腫瘍や骨粗鬆症に代表される骨代謝性疾患など、他の診療科と比べて格段に多くの病気や怪我を扱います。

厚生労働省の国民生活基礎調査によると、病気や怪我等で自覚症状のある人の割合（有訴率）は、男性の1位が腰痛、3位が手足の関節痛、女性の1位が腰痛、2位が手足の関節痛というように、病院や診療所を受診された患者さんが訴える症状の大部分は整形外科に関係します。

日本はこれから前例を見ない、超高齢化時代に突入していきます。同時に少子化が進み、65歳以上の高齢者1人を支えるのに、2025年は1.8人、2060年には1.2人の若者しかいなくなってしまう。

これからは高齢になっても元気で動けることが、社会に必要とされます。少子化対策は政治的要素が多いのですが、高齢者を元気にするためには医療、特に整形外科の力が発揮されるべきと考えます。

2007年に公益社団法人日本整形外科学会は、ロコモティブ・シンドローム（ロコモ）という言葉の提唱し、国民の皆様に運動器の重要性を訴えました。2012年には、国民の皆様の健康に対する厚労省の方針として、「健康日本21」の中にロコモという言葉の普及率を上げる政策が盛り込まれました。

ロコモとは、「加齢により移動能力の低下を来し、要支援・要介護になる危険のある状態」を言います。ロコモにならないようにするには、毎日の運動習慣を身に着けることが肝要です。体幹や下肢の衰えを早期に発見し、早期に運動していくことは、今問題になっている認知症や糖尿病の予防にもつながります。

私たちJCOAの会員は、全国におりますので、手足腰など運動器の問題はぜひご相談ください。